



北陸 3 県の 法人企業景気予測調査

(第 9 0 回 令和 8 年 7 — 9 月期調査)

【 調査時点：令和 8 年 8 月 1 5 日 】

令和 8 年 9 月 1 1 日
財務省 北陸財務局

連絡・お問合せ先
財務省 北陸財務局 経済調査課
金沢市新神田 4 丁目 3 番 1 0 号
T e l . (076) 292-7858

〔調査の要領〕

1. 調査の目的と根拠

この調査は、我が国経済活動の主要部分を占める企業活動を把握することにより、経済の現状及び今後の見通しに関する基礎資料を得ることを目的として、統計法に基づく一般統計調査として年4回実施しているものである。

2. 調査時点 令和8年8月15日

3. 調査対象期間

判断項目	8年7～9月期及び9月末見込み 8年10～12月期及び12月末見通し 9年1～3月期及び3月末見通し
計数項目	8年度実績見込み

4. 調査対象企業の選定

北陸3県内に所在する資本金1千万円以上の法人企業で、法人企業統計調査（四半期別）の標本企業から無作為抽出した。なお、毎年4月に抽出替えを行っている。

5. 調査方法

対象企業に調査票を郵送、またはオンラインでの入力を依頼し、自計記入を求める方法によった。

6. 集計の方法

日本標準産業分類に則した業種分類による単純集計を行った。

(調査対象企業数及び回収状況)

		全 規 模			
			大 企 業	中 堅 企 業	中 小 企 業
全 産 業	調査企業数	3 5 1	8 7	7 6	1 8 8
	回答企業数	3 3 6	8 7	7 5	1 7 4
	回収率 %	9 5 . 7	1 0 0 . 0	9 8 . 7	9 2 . 6
製 造 業	調査企業数	1 3 4	4 2	2 9	6 3
	回答企業数	1 3 0	4 2	2 8	6 0
	回収率 %	9 7 . 0	1 0 0 . 0	9 6 . 6	9 5 . 2
非 製 造 業	調査企業数	2 1 7	4 5	4 7	1 2 5
	回答企業数	2 0 6	4 5	4 7	1 1 4
	回収率 %	9 4 . 9	1 0 0 . 0	1 0 0 . 0	9 1 . 2

(注) 本調査において、大企業とは資本金10億円以上、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満、中小企業とは資本金1千万円以上1億円未満の企業をいう。

(参 考)

【 B S I (Business Survey Index) の見方 】

B S I = (「上昇」等と回答した企業の構成比)

－ (「下降」等と回答した企業の構成比)

B S I が+の場合は「上昇」等が「下降」等より強く、景気等は上昇過程にあるものと判断され、－の場合はその逆を表す。

また、値の大きさはその強さを示している。

(例) 「景況判断」の場合

前期と比べて・「上昇」と回答した企業の構成比 …… 30.0%

・「不変」と回答した企業の構成比 …… 40.0%

・「下降」と回答した企業の構成比 …… 20.0%

・「不明」と回答した企業の構成比 …… 10.0%

B S I = 30.0 - 20.0 = 10.0%ポイント → 10.0%ポイントの「上昇」超

◆ 次回公表予定 (令和8年10－12月期調査)

令和8年12月10日 (木)

〔調査の結果〕

1. 景況判断

(1) 企業の景況・・・現状判断は「下降」超、先行き見通し（8年10～12月期）は「上昇」超

〔現状判断（8年7～9月期）〕

企業の景況判断BSI（前期比「上昇」－「下降」社数構成比、原数値）をみると、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。

業種別では、製造業は、「繊維工業」、「非鉄金属」等が「下降」超、「金属製品」、「生産用機械器具」等が「上昇」超となっている。非製造業は、「卸売」、「運輸、郵便」等が「下降」超、「その他の物品賃貸」等が「上昇」超となっている。

規模別では、中堅企業、中小企業が「下降」超、大企業が「上昇」超となっている。

〔先行き見通し（8年10～12月期）〕

製造業、非製造業ともに「上昇」超となる見通しとなっている。

業種別では、製造業は、「生産用機械器具」等が「上昇」超となる見通しとなっている。非製造業は、「卸売」等が「上昇」超となる見通しとなっている。

〔先行き見通し（9年1～3月期）〕

全産業では「下降」超となる見通しとなっている。

企業の景況判断BSI（原数値）

（前期比「上昇」－「下降」社数構成比）

（単位：％ポイント）

区 分		8年4～6月 前回調査	8年7～9月 現状判断	8年10～12月 見通し	9年1～3月 見通し
全 産 業		▲ 10.8	(▲ 6.7) ▲ 4.2	(▲ 0.9) 1.8	▲ 1.5
	製 造 業	▲ 19.2	(▲ 13.1) ▲ 2.3	(0.0) 1.5	1.5
	非 製 造 業	▲ 5.6	(▲ 2.8) ▲ 5.3	(▲ 1.4) 1.9	▲ 3.4
規 模 別	大 企 業	▲ 3.4	(3.4) 6.9	(2.3) 4.6	3.4
	中 堅 企 業	5.3	(▲ 18.7) ▲ 8.0	(0.0) 4.0	0.0
	中 小 企 業	▲ 21.0	(▲ 6.6) ▲ 8.0	(▲ 2.8) ▲ 0.6	▲ 4.6

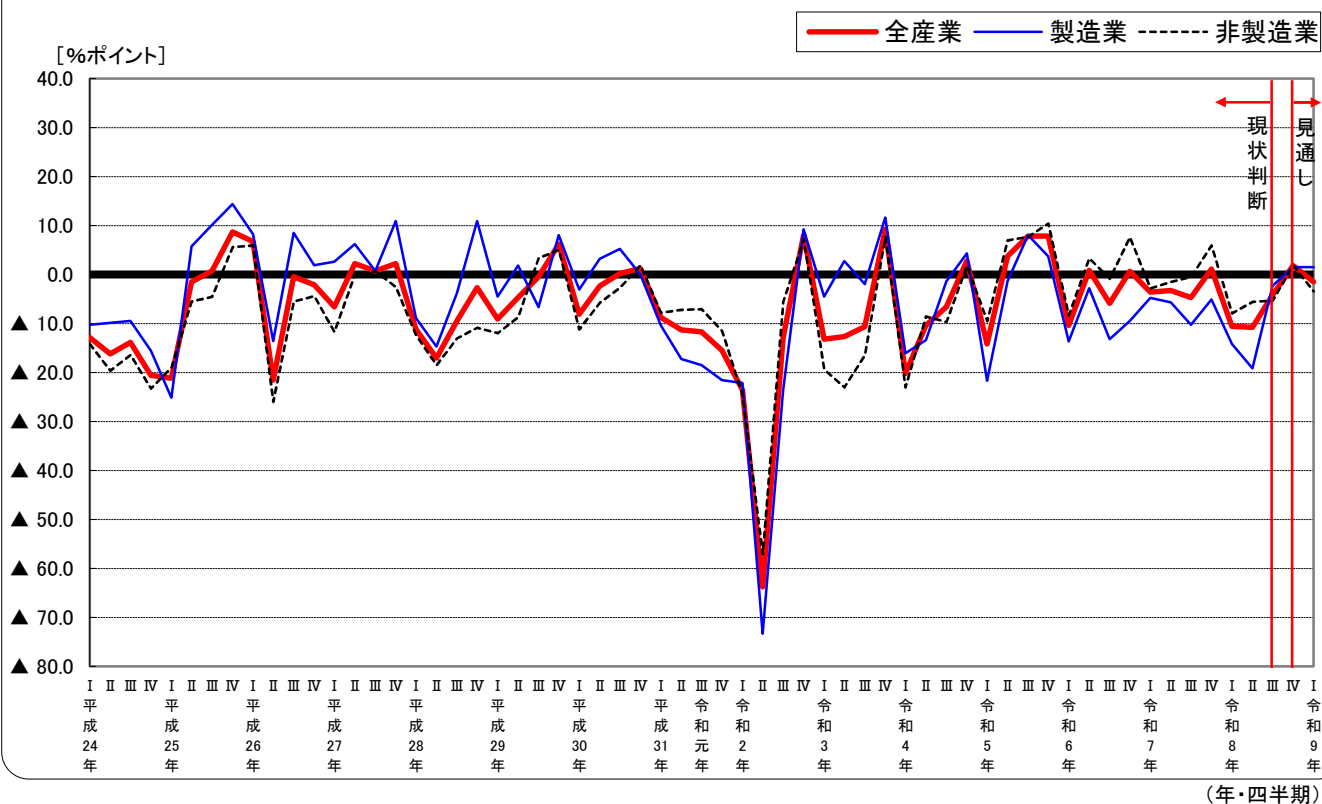
（注）8年7～9月、8年10～12月の（ ）は前回調査時の見通し。

(単位：%ポイント)

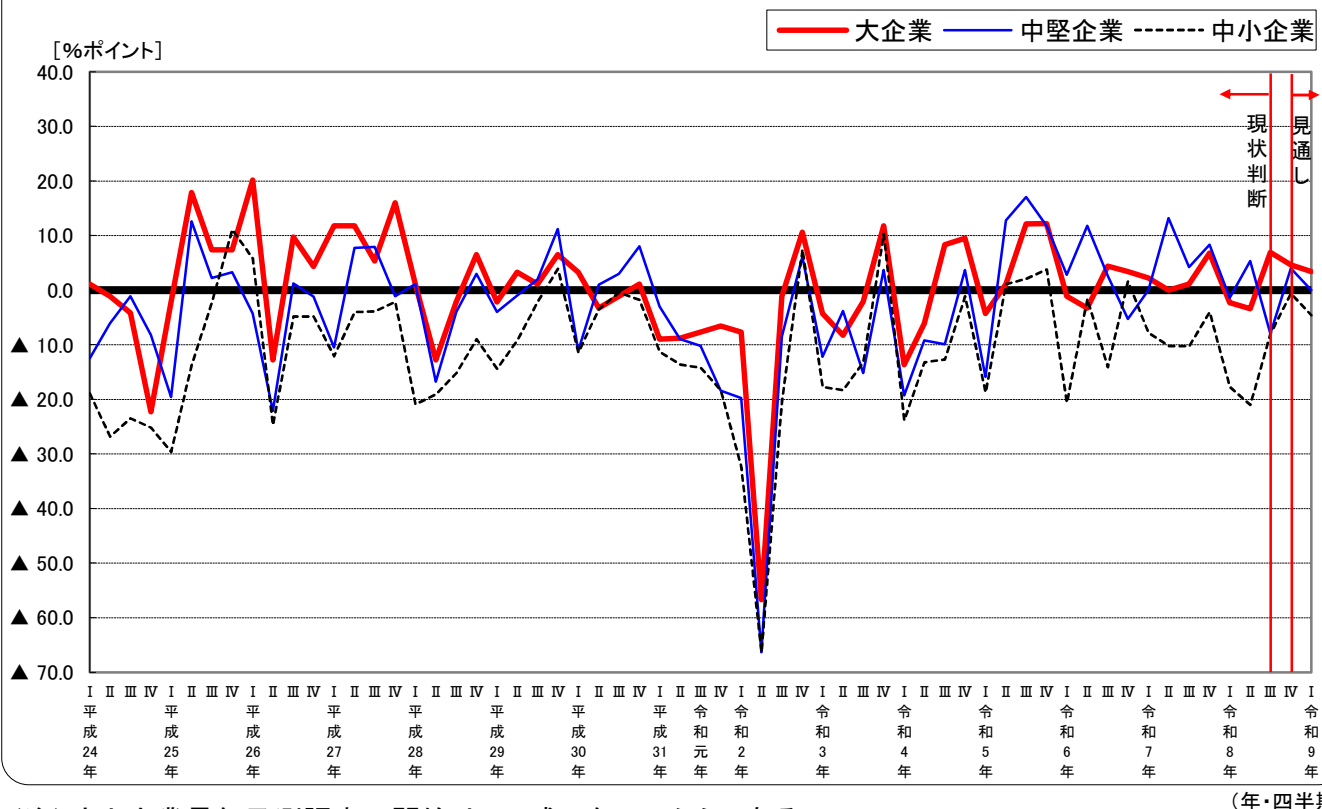
業種別		期間別	8年 4～6月 (前回調査)	8年 7～9月 現状判断	8年 10～12月 見通し	9年 1～3月 見通し
企業の 景況判 断B S I (前期比「上昇」 ―「下降」 社数構成比)	《 全産業 》		(▲ 10.8)	▲ 4.2	1.8	▲ 1.5
	[製造業]		(▲ 19.2)	▲ 2.3	1.5	1.5
	食料品製造業		(▲ 42.9)	▲ 28.6	▲ 28.6	0.0
	繊維工業		(▲ 11.1)	▲ 36.8	0.0	▲ 5.3
	木材・木製品製造業		(▲ 60.0)	0.0	0.0	▲ 20.0
	パルプ・紙・紙加工品製造業		(▲ 75.0)	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 25.0
	化学工業		(▲ 20.0)	▲ 11.1	▲ 33.3	0.0
	石油製品・石炭製品製造業		(▲ 33.3)	▲ 66.7	▲ 33.3	0.0
	窯業・土石製品製造業		(▲ 40.0)	0.0	▲ 20.0	▲ 40.0
	鉄鋼業		(16.7)	16.7	16.7	0.0
	非鉄金属製造業		(▲ 20.0)	▲ 40.0	0.0	20.0
	金属製品製造業		(▲ 35.7)	30.8	7.7	0.0
	はん用機械器具製造業		(0.0)	▲ 25.0	0.0	0.0
	生産用機械器具製造業		(▲ 23.1)	30.8	30.8	30.8
	業務用機械器具製造業		(▲ 100.0)	0.0	0.0	0.0
	電気機械器具製造業		(▲ 20.0)	20.0	40.0	▲ 20.0
	情報通信機械器具製造業		(▲ 12.5)	12.5	0.0	0.0
	自動車・同附属品製造業		(0.0)	16.7	33.3	16.7
	その他の輸送用機械器具製造業		(▲ 100.0)	0.0	0.0	100.0
	その他製造業		(20.0)	12.5	0.0	6.3
	[非製造業]		(▲ 5.6)	▲ 5.3	1.9	▲ 3.4
	農林水産業		(▲ 25.0)	33.3	▲ 66.7	▲ 66.7
	鉱業、採石業、砂利採取業		(33.3)	0.0	50.0	▲ 50.0
	建設業		(▲ 7.9)	▲ 2.7	5.4	▲ 10.8
	電気・ガス・水道業		(14.3)	0.0	0.0	0.0
	情報通信業		(▲ 6.3)	▲ 12.5	0.0	▲ 12.5
	運輸業、郵便業		(▲ 6.3)	▲ 13.3	0.0	6.7
	卸売業		(▲ 5.3)	▲ 17.6	17.6	17.6
	小売業		(▲ 29.4)	0.0	0.0	0.0
	不動産業		(6.3)	▲ 6.7	6.7	0.0
	リース業		(▲ 20.0)	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 60.0
	その他の物品賃貸業		(0.0)	66.7	33.3	0.0
	宿泊業、飲食サービス業		(12.5)	0.0	▲ 12.5	▲ 12.5
	生活関連サービス業		(0.0)	▲ 25.0	25.0	0.0
	娯楽業		(0.0)	25.0	25.0	▲ 25.0
	学術研究、専門・技術サービス業		(▲ 10.0)	0.0	0.0	0.0
	医療、教育		(0.0)	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0
	職業紹介・労働者派遣業		(0.0)	0.0	0.0	0.0
	その他のサービス業		(0.0)	0.0	9.1	18.2
	金融業、保険業		(▲ 5.6)	▲ 11.1	0.0	5.6

(注) () は前回調査時の現状判断。

≪ 北陸3県の景況判断BSIの推移（産業別） ≫



≪ 北陸3県の景況判断BSIの推移（規模別） ≫



(注) 法人企業景気予測調査の開始は、平成16年ⅡQからである。

(2) 企業の景況判断の決定要因

8年7～9月期の景況判断の決定要因（1社10項目中、3項目以内回答）をみると、次のとおりとなっている。

企業の景況判断の決定要因

（上昇要因）

区 分	1 位	%	2 位	%	3 位	%
全産業	国内需要（売上）	91.1	販売価格	46.7	海外需要（売上）	26.7
製造業	国内需要（売上）	100.0	海外需要（売上）	41.7	販売価格	33.3
非製造業	国内需要（売上）	81.0	販売価格	61.9	仕入価格	19.0
大企業	国内需要（売上）	90.0	海外需要（売上）	70.0	販売価格	50.0
中堅企業	国内需要（売上）	100.0	販売価格	55.6	海外需要（売上） 仕入価格	22.2
中小企業	国内需要（売上）	88.5	販売価格	42.3	仕入価格	15.4

（下降要因）

区 分	1 位	%	2 位	%	3 位	%
全産業	国内需要（売上）	87.7	仕入価格	64.9	仕入以外のコスト	42.1
製造業	国内需要（売上）	85.2	仕入価格	74.1	仕入以外のコスト	48.1
非製造業	国内需要（売上）	90.0	仕入価格	56.7	販売価格	43.3
大企業	仕入価格	100.0	仕入以外のコスト	75.0	国内需要（売上）	50.0
中堅企業	国内需要（売上）	92.3	仕入価格 仕入以外のコスト	53.8	—	—
中小企業	国内需要（売上）	90.0	仕入価格	65.0	販売価格	47.5

（注1）「金融業、保険業」は調査対象外。

（注2）回答社数構成比である。

選択項目

1 国内需要（売上）	5 仕入以外のコスト	9 税制・会計制度等
2 海外需要（売上）	6 資金繰り・資金調達	10 その他
3 販売価格	7 株式・不動産等の資産価格	
4 仕入価格	8 為替レート	

2. 売上高（除く「電気・ガス・水道業」）・・・8年度は増収見込み

8年度は、製造業、非製造業ともに増収見込みとなっている。

業種別では、製造業は、「金属製品」、「非鉄金属」等が増収見込み、「食料品」等が減収見込みとなっている。非製造業は、「学研究、専門・技術サービス」、「小売」等が増収見込み、「医療、教育」等が減収見込みとなっている。

（前年度比増減率、単位：％）

		全産業		
			製造業	非製造業
売上高	8年度	(7.1) 7.9	(7.7) 7.6	(6.1) 8.6

	大企業	中堅企業	中小企業
規模別	(7.3) 7.2	(9.0) 11.0	(▲ 4.3) 2.6

（注1）「金融業、保険業」は調査対象外。

（注2）（ ）は前回調査結果。

3. 経常利益（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」） ・・・8年度は増益見込み

8年度は、製造業は減益見込み、非製造業は増益見込み、全産業では増益見込みとなっている。

業種別では、製造業は、「窯業・土石製品」、「情報通信機械器具」等が減益見込み、「非鉄金属」等が増益見込みとなっている。非製造業は、「学研究、専門・技術サービス」、「小売」等が増益見込み、「運輸、郵便」等が減益見込みとなっている。

（前年度比増減率、単位：％）

		全産業		
			製造業	非製造業
経常利益	8年度	(6.8) 8.8	(▲ 4.5) ▲ 2.7	(28.2) 32.4

	大企業	中堅企業	中小企業
規模別	(8.0) 9.4	(3.7) 7.6	(▲ 7.9) ▲ 1.8

（注）（ ）は前回調査結果。

**売上高（除く「電気・ガス・水道業」）及び
経常利益（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）**

（前年度比増減率、単位：％）

区 分	【 売上高 】 8 年度	【 経常利益 】 8 年度
《 全産業 》	7.9	8.8
〔 製造業 〕	7.6	▲ 2.7
食料品製造業	▲ 9.8	▲ 29.4
繊維工業	6.6	2.7
木材・木製品製造業	▲ 6.4	X
パルプ・紙・紙加工品製造業	▲ 3.7	▲ 53.0
化学工業	1.4	▲ 0.5
石油製品・石炭製品製造業	▲ 10.0	▲ 2.1
窯業・土石製品製造業	0.2	▲ 32.3
鉄鋼業	14.2	21.3
非鉄金属製造業	31.2	445.3
金属製品製造業	10.0	▲ 14.9
はん用機械器具製造業	9.6	37.2
生産用機械器具製造業	4.3	7.2
業務用機械器具製造業	X	X
電気機械器具製造業	16.3	9.2
情報通信機械器具製造業	9.9	▲ 28.1
自動車・同附属品製造業	5.2	▲ 11.7
その他の輸送用機械器具製造業	X	X
その他製造業	6.5	9.7
〔 非製造業 〕	8.6	32.4
農林水産業	27.9	赤字拡大
鉱業、採石業、砂利採取業	X	X
建設業	6.6	▲ 3.1
情報通信業	4.2	▲ 11.6
運輸業、郵便業	1.9	▲ 41.3
卸売業	19.0	17.9
小売業	5.4	8.7
不動産業	4.8	▲ 10.1
リース業	▲ 1.5	40.5
その他の物品賃貸業	4.2	8.6
宿泊業、飲食サービス業	10.8	7.7
生活関連サービス業	0.4	▲ 46.2
娯楽業	X	X
学術研究、専門・技術サービス業	59.7	80.1
医療、教育	▲ 3.2	▲ 27.8
職業紹介・労働者派遣業	…	…
その他のサービス業	6.2	19.0

参考（含む「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）

（前年度比増減率、単位：％）

《 全産業 》	7.8	7.4
〔 非製造業 〕	8.4	16.3
電気・ガス・水道業	4.5	472.2
金融業、保険業		0.8

（注1）売上高については「金融業、保険業」は調査対象外。

（注2）業種別の回答社数が3社未満の場合、Xで表示。

（注3）数字が得られない場合、…で表示。

4. 設備投資（除く「電気・ガス・水道業」）・・・8年度は減少見込み

8年度は、製造業、非製造業ともに減少見込みとなっている。

業種別では、製造業は、「情報通信機械器具」、「化学工業」等が減少見込み、「生産用機械器具」等が増加見込みとなっている。非製造業は、「運輸、郵便」、「金融、保険」等が減少見込み、「情報通信」等が増加見込みとなっている。

（前年度比増減率、単位：％）

		全産業		
			製造業	非製造業
設備投資	8年度	(▲ 5.4) ▲ 1.7	(▲ 3.3) ▲ 1.9	(▲ 7.5) ▲ 1.3

	大企業	中堅企業	中小企業
規模別	(▲ 5.1) ▲ 4.9	(▲ 5.5) 13.2	(▲ 13.8) 10.5

（注1）ソフトウェア投資額を含み、土地購入額は含まない。

（注2）（ ）は前回調査結果。

5. 生産・販売などのための設備・・・現状判断は「不足」超、先行き見通し（8年12月末）も「不足」超

8年9月末時点の設備判断BSI（期末判断「不足」－「過大」社数構成比、原数値）をみると、業種別、規模別ともに「不足」超となっている。

先行きをみると、8年12月末時点は、製造業、非製造業ともに「不足」超の見通しとなっている。

9年3月末時点は、全産業では「不足」超の見通しとなっている。

生産・販売などのための設備判断BSI（原数値）

（期末判断「不足」－「過大」社数構成比）

（単位：％ポイント）

区 分	8年6月末 前回調査	8年9月末 現状判断	8年12月末 見通し	9年3月末 見通し
全 産 業	3.9	(4.9) 7.4	(5.6) 5.3	6.0
製 造 業	▲ 1.8	(▲ 1.8) 4.2	(0.9) 1.7	4.2
非 製 造 業	7.6	(9.4) 9.6	(8.8) 7.8	7.2
規 模 別				
大 企 業	0.0	(0.0) 1.2	(1.2) 1.2	1.2
中 堅 企 業	7.9	(9.5) 9.1	(4.8) 6.1	7.6
中 小 企 業	4.4	(5.8) 10.2	(8.8) 7.3	8.0

（注）8年9月末、8年12月末の（ ）は前回調査時の見通し。

設備投資（除く「電気・ガス・水道業」）

（前年度比増減率、単位：％）

区 分	8 年度
≪ 全産業 ≫	▲ 1.7
〔 製造業 〕	▲ 1.9
食料品製造業	▲ 21.1
繊維工業	75.6
木材・木製品製造業	81.8
パルプ・紙・紙加工品製造業	179.2
化学工業	▲ 30.0
石油製品・石炭製品製造業	▲ 89.0
窯業・土石製品製造業	▲ 36.9
鉄鋼業	223.7
非鉄金属製造業	157.1
金属製品製造業	▲ 16.2
はん用機械器具製造業	▲ 17.2
生産用機械器具製造業	80.3
業務用機械器具製造業	X
電気機械器具製造業	192.4
情報通信機械器具製造業	▲ 50.9
自動車・同附属品製造業	10.7
その他の輸送用機械器具製造業	X
その他製造業	▲ 1.8
〔 非製造業 〕	▲ 1.3
農林水産業	12.7
鉱業、採石業、砂利採取業	X
建設業	25.8
情報通信業	45.7
運輸業、郵便業	▲ 13.6
卸売業	▲ 26.2
小売業	3.1
不動産業	▲ 9.9
リース業	▲ 97.9
その他の物品賃貸業	皆減
宿泊業、飲食サービス業	187.9
生活関連サービス業	皆減
娯楽業	X
学術研究、専門・技術サービス業	▲ 11.1
医療、教育	263.6
職業紹介・労働者派遣業	…
その他のサービス業	0.0
金融業、保険業	▲ 4.6

参考（含む「電気・ガス・水道業」）

（前年度比増減率、単位：％）

≪ 全産業 ≫	0.7
〔 非製造業 〕	3.8
電気・ガス・水道業	109.8

（注1）ソフトウェア投資額を含み、土地購入額は含まない。

（注2）業種別の回答社数が3社未満の場合、Xで表示。

（注3）数字が得られない場合、…で表示。

6. 今年度における設備投資の対象

今年度における設備投資の対象（１社１０項目中、３項目以内回答）をみると、全産業では「生産・販売等の機械及び装置」と回答した企業が最も多く、次いで「工具、器具及び備品」、「ソフトウェア」の順となっている。

業種別では、製造業は、「生産・販売等の機械及び装置」と回答した企業が最も多く、次いで「工具、器具及び備品」、「建物（工場・店舗等の生産・販売等用）」の順となっている。非製造業は、「ソフトウェア」と回答した企業が最も多く、次いで「生産・販売等の機械及び装置」、「工具、器具及び備品」の順となっている。

今年度における設備投資の対象

区 分	1 位	%	2 位	%	3 位	%	
全 産 業	生産・販売等の機械及び装置	56.7	工具、器具及び備品	42.6	ソフトウェア	42.2	
	製 造 業	生産・販売等の機械及び装置	81.4	工具、器具及び備品	49.6	建物（工場・店舗等の生産・販売等用）	38.9
	非製造業	ソフトウェア	45.3	生産・販売等の機械及び装置	38.0	工具、器具及び備品	37.3
規 模 別	大 企 業	生産・販売等の機械及び装置	59.3	ソフトウェア	42.0	工具、器具及び備品	34.6
	中堅企業	生産・販売等の機械及び装置	61.5	ソフトウェア	41.5	工具、器具及び備品	40.0
	中小企業	生産・販売等の機械及び装置	52.1	工具、器具及び備品	49.6	ソフトウェア	42.7

（注）回答社数構成比である。

選択項目

1 建物(本社・支社等の内部管理用)	6 車両、船舶及び航空機等
2 建物(工場・店舗等の生産・販売等用)	7 工具、器具及び備品
3 建物以外の構造物・構築物	8 ソフトウェア
4 生産・販売等の機械及び装置(5を除く)	9 土地
5 情報機器	10 その他

7. 従業員数・・・現状判断は「不足気味」超、先行きも「不足気味」超の見通し

8年9月末時点の従業員数判断B S I（期末判断「不足気味」－「過剰気味」社数構成比、原数値）をみると、業種別、規模別ともに「不足気味」超となっている。

先行きをみると、8年12月末時点も、製造業、非製造業ともに「不足気味」超の見通しとなっている。

9年3月末時点も、全産業では「不足気味」超の見通しとなっている。

従業員数判断B S I（原数値）

（期末判断「不足気味」－「過剰気味」社数構成比）

（単位：％ポイント）

区 分		8 年 6 月 末 前 回 調 査	8 年 9 月 末 現 状 判 断	8 年 12 月 末 見 通 し	9 年 3 月 末 見 通 し
全 産 業		31.8	(30.5) 35.2	(28.8) 32.8	30.7
	製 造 業	25.4	(24.6) 29.1	(23.7) 24.8	25.6
	非 製 造 業	36.0	(34.3) 39.4	(32.0) 38.2	34.1
規 模 別	大 企 業	24.4	(20.9) 23.8	(17.4) 17.9	16.7
	中 堅 企 業	40.3	(40.3) 43.3	(35.8) 41.8	40.3
	中 小 企 業	32.4	(31.7) 38.2	(32.4) 37.5	34.6

（注）8年9月末、8年12月末の（ ）は前回調査時の見通し。

8. 人手不足が会社経営に与える影響

人手不足が会社経営に与える影響（１社１０項目中、３項目以内回答）をみると、全産業では「業務負担・勤務時間の増加」と回答した企業が最も多く、次いで「賃上げに伴う人件費の上昇」、「技術伝承・人材育成の停滞」の順となっている。

業種別では、製造業は、「賃上げに伴う人件費の上昇」と回答した企業が最も多く、次いで「技術伝承・人材育成の停滞」、「業務負担・勤務時間の増加」の順となっている。非製造業は、「業務負担・勤務時間の増加」と回答した企業が最も多く、次いで「賃上げに伴う人件費の上昇」、「サービス・品質の低下」の順となっている。

人手不足が会社経営に与える影響

区 分		1位	%	2位	%	3位	%
全 産 業		業務負担・勤務時間の増加	50.9	賃上げに伴う人件費の上昇	48.0	技術伝承・人材育成の停滞	33.8
	製 造 業	賃上げに伴う人件費の上昇	53.0	技術伝承・人材育成の停滞	46.2	業務負担・勤務時間の増加	44.4
	非製造業	業務負担・勤務時間の増加	55.7	賃上げに伴う人件費の上昇	44.3	サービス・品質の低下	34.2
規 模 別	大 企 業	業務負担・勤務時間の増加	58.8	賃上げに伴う人件費の上昇	45.0	採用コストの増加	37.5
	中堅企業	賃上げに伴う人件費の上昇	53.0	—	—	採用コストの増加	30.3
		業務負担・勤務時間の増加					
	中小企業	賃上げに伴う人件費の上昇	47.3	業務負担・勤務時間の増加	45.0	技術伝承・人材育成の停滞	36.4

（注）回答社数構成比である。

選択項目

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 賃上げに伴う人件費の上昇 | 6 事業の縮小・撤退 |
| 2 採用コストの増加 | 7 技術伝承・人材育成の停滞 |
| 3 業務負担・勤務時間の増加 | 8 無人化・省力化投資の増加 |
| 4 サービス・品質の低下 | 9 特になし |
| 5 受注量・生産量の制限 | 10 その他 |

(単位：%ポイント)

項目別 規模別		業種別 期間別	全産業				製造業				非製造業			
			8年 4～6月 (前回調査)	8年 7～9月 現状判断	8年 10～12月 見通し	9年 1～3月 見通し	8年 4～6月 (前回調査)	8年 7～9月 現状判断	8年 10～12月 見通し	9年 1～3月 見通し	8年 4～6月 (前回調査)	8年 7～9月 現状判断	8年 10～12月 見通し	9年 1～3月 見通し
① 貴社の景況 「上昇」-「下降」	全規模		(▲ 10.8)	▲ 4.2	1.8	▲ 1.5	(▲ 19.2)	▲ 2.3	1.5	1.5	(▲ 5.6)	▲ 5.3	1.9	▲ 3.4
	大企業		(▲ 3.4)	6.9	4.6	3.4	(▲ 2.4)	16.7	9.5	9.5	(▲ 8.7)	▲ 2.2	0.0	▲ 2.2
	中堅企業		(▲ 5.3)	▲ 8.0	4.0	0.0	(▲ 0.0)	▲ 10.7	0.0	▲ 3.6	(▲ 8.5)	▲ 6.4	6.4	2.1
	中小企業		(▲ 21.0)	▲ 8.0	▲ 0.6	▲ 4.6	(▲ 43.3)	▲ 11.7	▲ 3.3	▲ 1.7	(▲ 9.9)	▲ 6.1	0.9	▲ 6.1
② 国内の景況 「上昇」-「下降」	全規模		(▲ 21.9)	▲ 10.5	▲ 8.7	▲ 8.0	(▲ 26.5)	▲ 11.0	▲ 11.9	▲ 5.1	(▲ 18.9)	▲ 10.1	▲ 6.5	▲ 10.1
	大企業		(▲ 5.9)	1.2	3.6	1.2	(▲ 4.9)	5.0	5.0	2.5	(▲ 6.8)	▲ 2.3	2.3	0.0
	中堅企業		(▲ 12.1)	▲ 11.9	▲ 7.5	▲ 6.0	(▲ 11.1)	▲ 7.4	▲ 7.4	3.7	(▲ 12.8)	▲ 15.0	▲ 7.5	▲ 12.5
	中小企業		(▲ 36.5)	▲ 16.8	▲ 16.8	▲ 14.6	(▲ 55.6)	▲ 25.5	▲ 27.5	▲ 15.7	(▲ 27.2)	▲ 11.6	▲ 10.5	▲ 14.0
③※ 生産・販売などのための設備 「不足」-「過大」	全規模		(▲ 3.9)	7.4	5.3	6.0	(▲ 1.8)	4.2	1.7	4.2	(▲ 7.6)	9.6	7.8	7.2
	大企業		(▲ 0.0)	1.2	1.2	1.2	(▲ 7.3)	▲ 5.0	▲ 5.0	▲ 5.0	(▲ 7.0)	7.1	7.1	7.1
	中堅企業		(▲ 7.9)	9.1	6.1	7.6	(▲ 7.4)	11.1	3.7	7.4	(▲ 8.3)	7.7	7.7	7.7
	中小企業		(▲ 4.4)	10.2	7.3	8.0	(▲ 2.2)	7.8	5.9	9.8	(▲ 7.7)	11.6	8.1	7.0
④※ 従業員数 「不足気味」 -「過剰気味」	全規模		(▲ 31.8)	35.2	32.8	30.7	(▲ 25.4)	29.1	24.8	25.6	(▲ 36.0)	39.4	38.2	34.1
	大企業		(▲ 24.4)	23.8	17.9	16.7	(▲ 17.1)	17.5	7.5	5.0	(▲ 31.1)	29.5	27.3	27.3
	中堅企業		(▲ 40.3)	43.3	41.8	40.3	(▲ 51.9)	44.4	40.7	48.1	(▲ 32.5)	42.5	42.5	35.0
	中小企業		(▲ 32.4)	38.2	37.5	34.6	(▲ 17.4)	30.0	30.0	30.0	(▲ 39.8)	43.0	41.9	37.2

(注1) () は前回調査時の現状判断。

(注2) ※は、期末判断項目。

石川県内の法人企業景気予測調査
(第90回 令和8年7～9月期調査)

令和8年9月11日
財務省北陸財務局

(調査対象企業数及び回収状況)

		全規模	大企業	中堅企業	中小企業
全産業	調査企業数	123	31	27	65
	回答企業数	118	31	27	60
	回収率 %	95.9	100.0	100.0	92.3
製造業	調査企業数	43	15	8	20
	回答企業数	42	15	8	19
	回収率 %	97.7	100.0	100.0	95.0
非製造業	調査企業数	80	16	19	45
	回答企業数	76	16	19	41
	回収率 %	95.0	100.0	100.0	91.1

(注) 本調査において、大企業とは資本金10億円以上、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満、中小企業とは資本金1千万円以上1億円未満の企業をいう。

企業の景況判断BSI(原数値)

(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)

(単位:%ポイント)

区 分	8 年 4 ～ 6 月 前 回 調 査	8 年 7 ～ 9 月 現 状 判 断	8 年 10 ～ 12 月 見 通 し	9 年 1 ～ 3 月 見 通 し
全 産 業	▲ 6.6	(▲ 7.4) ▲ 1.7	(▲ 0.8) 5.1	0.0
	製 造 業	▲ 11.9 (▲ 23.8) ▲ 4.8	(▲ 7.1) 7.1	4.8
	非製造業	▲ 3.8 (1.3) 0.0	(2.5) 3.9	▲ 2.6
規 模 別	大 企 業	0.0 (0.0) 3.2	(▲ 3.2) 6.5	6.5
	中 堅 企 業	14.8 (▲ 11.1) ▲ 3.7	(11.1) 18.5	14.8
	中 小 企 業	▲ 18.8 (▲ 9.4) ▲ 3.3	(▲ 4.7) ▲ 1.7	▲ 10.0

(注)8年7～9月、8年10～12月の()は前回調査時の見通し。

企業の景況判断の決定要因

(上昇要因)

区 分	1 位	%	2 位	%	3 位	%
全 産 業	国内需要 (売上)	93.8	販売価格	50.0	海外需要 (売上)	25.0
	製 造 業	国内需要 (売上)	100.0	海外需要 (売上) 販売価格	—	—
	非製造業	国内需要 (売上)	88.9	販売価格	※1	11.1
規 模 別	大 企 業	※2	—	—	—	—
	中 堅 企 業	国内需要 (売上)	100.0	販売価格 仕入価格	—	—
	中 小 企 業	国内需要 (売上)	100.0	販売価格	※3	20.0

(下降要因)

区 分	1 位	%	2 位	%	3 位	%	
全 産 業	国内需要（売上）	82.4	仕入価格	70.6	仕入以外のコスト	47.1	
	製造業	仕入価格	88.9	国内需要（売上）	77.8	仕入以外のコスト	55.6
	非製造業	国内需要（売上）	87.5	仕入価格	50.0	仕入以外のコスト	37.5
規 模 別	大企業	仕入価格 仕入以外のコスト	100.0	—	—	国内需要（売上） 為替レート	50.0
	中堅企業	国内需要（売上）	100.0	※ 4	33.3	—	—
	中小企業	国内需要（売上）	83.3	仕入価格	75.0	販売価格 仕入以外のコスト	41.7

(注1)「金融業、保険業」は調査対象外。

(注2)10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

選択項目

1:国内需要(売上)
2:海外需要(売上)
3:販売価格
4:仕入価格
5:仕入以外のコスト
6:資金繰り・資金調達
7:株式・不動産等の資産価格
8:為替レート
9:税制・会計制度等
10:その他

※1 海外需要(売上)
仕入価格
仕入以外のコスト
資金繰り・資金調達

※2 国内需要(売上)
海外需要(売上)
販売価格

※3 海外需要(売上)
仕入以外のコスト
資金繰り・資金調達

※4 海外需要(売上)
仕入価格
仕入以外のコスト

売上高

(前年度比増減率、単位:%)

		全産業	製造業	非製造業
売 上 高	8 年 度	(11.0) 11.0	(11.0) 8.5	(11.2) 20.1

	大企業	中堅企業	中小企業
規 模 別	(13.6) 11.8	(1.8) 8.2	(3.2) 8.5

(注1)「電気・ガス・水道業」を除く。また、「金融業、保険業」は調査対象外。

(注2)()は前回調査結果。

経常利益

(前年度比増減率、単位:%)

		全産業	製造業	非製造業
経 常 利 益	8 年 度	(32.0) 28.2	(8.8) ▲ 7.9	(50.0) 61.1

	大企業	中堅企業	中小企業
規 模 別	(44.9) 37.0	(▲13.5) ▲ 5.1	(0.2) 6.8

(注1)「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」を除く。

(注2)()は前回調査結果。

設備投資 (前年度比増減率、単位：％)

		全産業		
			製造業	非製造業
設 備 投 資	8 年 度	(▲26.3) ▲ 22.3	(▲17.6) ▲ 10.1	(▲37.2) ▲ 37.7

		大企業	中堅企業	中小企業
規 模 別		(▲28.1) ▲ 23.6	(▲6.5) ▲ 10.2	(66.8) 49.8

(注1)「電気・ガス・水道業」を除く。
(注2)ソフトウェア投資額を含み、土地購入額は含まない。
(注3)()は前回調査結果。

生産・販売などのための設備判断BSI(原数値)
(期末判断 「不足」－「過大」 社数構成比) (単位：％ポイント)

区 分	8 年 6 月 末 前 回 調 査	8 年 9 月 末 現 状 判 断	8 年 1 2 月 末 見 通 し	9 年 3 月 末 見 通 し
全 産 業	1.1	(1.1) 9.8	(3.3) 7.6	6.5
	製 造 業	▲ 7.9 (▲ 7.9) 7.7	(▲ 5.3) 5.1	5.1
	非 製 造 業	7.5 (7.5) 11.3	(9.4) 9.4	7.5
規 模 別	大 企 業	▲ 6.7 (▲ 3.3) ▲ 3.4	(▲ 3.3) ▲ 3.4	▲ 3.4
	中 堅 企 業	10.0 (10.0) 14.3	(10.0) 14.3	14.3
	中 小 企 業	2.4 (0.0) 16.7	(4.9) 11.9	9.5

(注)8年9月末、8年12月末の()は前回調査時の見通し。

今年度における設備投資の対象

区 分	1位	%	2位	%	3位	%	
全産業	ソフトウェア	51.8	生産・販売等の機械及び装置	48.2	工具、器具及び備品	43.5	
	製造業	生産・販売等の機械及び装置	75.0	ソフトウェア	47.2	工具、器具及び備品	44.4
	非製造業	ソフトウェア	55.1	工具、器具及び備品	42.9	建物（本社・支社等の内部管理用）	34.7
規模別	大企業	ソフトウェア	60.7	生産・販売等の機械及び装置	50.0	情報機器	46.4
	中堅企業	生産・販売等の機械及び装置	57.1	建物以外の構造物・構築物 ソフトウェア	47.6	—	—
	中小企業	工具、器具及び備品	52.8	ソフトウェア	47.2	生産・販売等の機械及び装置	41.7

選択項目

- 1:建物(本社・支社等の内部管理用)
2:建物(工場・店舗等の生産・販売等用)
3:建物以外の構造物・構築物
4:生産・販売等の機械及び装置(5を除く)
5:情報機器
6:車両、船舶及び航空機等
7:工具、器具及び備品
8:ソフトウェア
9:土地
10:その他

(注)10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

従業員数判断BSI(原数値)
(期末判断「不足気味」－「過剰気味」 社数構成比) (単位：％ポイント)

区 分	8 年 6 月 末 前 回 調 査	8 年 9 月 末 現 状 判 断	8 年 1 2 月 末 見 通 し	9 年 3 月 末 見 通 し
全 産 業	35.8	(31.6) 39.8	(30.5) 36.6	34.4
	製 造 業	18.4 (21.1) 25.6	(18.4) 30.8	28.2
	非 製 造 業	47.4 (38.6) 50.0	(38.6) 40.7	38.9
規 模 別	大 企 業	16.7 (10.0) 13.8	(10.0) 10.3	10.3
	中 堅 企 業	54.2 (54.2) 59.1	(54.2) 54.5	54.5
	中 小 企 業	39.0 (34.1) 47.6	(31.7) 45.2	40.5

(注)8年9月末、8年12月末の()は前回調査時の見通し。

人手不足が会社経営に与える影響

区 分	1位	%	2位	%	3位	%	
全産業	賃上げに伴う人件費の上昇	56.7	業務負担・勤務時間の増加	54.4	採用コストの増加	36.7	
	製造業	賃上げに伴う人件費の上昇	59.0	技術伝承・人材育成の停滞	46.2	業務負担・勤務時間の増加	43.6
	非製造業	業務負担・勤務時間の増加	62.7	賃上げに伴う人件費の上昇	54.9	採用コストの増加	37.3
規模別	大企業	業務負担・勤務時間の増加	71.4	賃上げに伴う人件費の上昇 採用コストの増加	53.6	—	—
	中堅企業	賃上げに伴う人件費の上昇	52.4	業務負担・勤務時間の増加	47.6	サービス・品質の低下 技術伝承・人材育成の停滞	33.3
	中小企業	賃上げに伴う人件費の上昇	61.0	業務負担・勤務時間の増加	46.3	技術伝承・人材育成の停滞	34.1

(注)10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

選択項目

- 1:賃上げに伴う人件費の上昇
2:採用コストの増加
3:業務負担・勤務時間の増加
4:サービス・品質の低下
5:受注量・生産量の制限
6:事業の縮小・撤退
7:技術伝承・人材育成の停滞
8:無人化・省力化投資の増加
9:特になし
10:その他